

第 21 回宮坂英弑記念尖石縄文文化賞

受賞者 阿部昭典氏

尖石縄文文化賞条例にもとづく同賞選考委員会は、今井敦茅野市長の諮問を受け、新型コロナウイルスの感染防止に留意して、2 回にわたる書面審査を経て、9 月 26 日の委員会で選考した。今回、選考・審査の対象となったのは、個人、団体計 12 件である。

候補者の内訳は、30 歳代から 60 歳代におよび、研究歴や所属機関は多彩で、「受賞の対象となる研究及び活動の業績」についても、宮坂英弑が目指した研究によく適うものであった。このことは、本賞が広く学界等一般に周知されるとともに、縄文研究者の等しく希求すべき目標として意識されていることをよく示すものである。

こうした気概あふれた候補者を得て、慎重な審議を行い、第 21 回尖石縄文文化賞の受賞者として、阿部昭典氏（東京都）を全会一致で推薦することに決定した。

同氏の研究は多岐に亘るが、とくに二つのテーマに優れた成果と独自性が評価されるものである。その一つは、多様な縄文土器の器形のなかの注口付浅鉢について、使用痕跡や内面の付着物の化学的分析を通じて、当該土器の特異な使われ方を明らかにして、縄文土器の多様化とその背景の問題を追求するものである。その二つは、環状列石や配石墓などの構築物の出現と展開の研究を見極めながら、縄文文化および社会の質的な変化、社会の複雑化を明らかにしようとするものである。

こうした氏の研究は、尖石遺跡の調査を通じて、縄文人の行動や社会の解明に取り組んだ宮坂英弑の業績を顕彰する宮坂英弑記念尖石縄文文化賞の趣旨に沿い、さらに今後の研究の進展を期待させるものであり、まことにふさわしい受賞者である。

2020 年 9 月 26 日

宮坂英弑記念尖石縄文文化賞選考委員会

委員長 小林 達雄



第 21 回受賞者 阿部昭典氏